

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング
‘製品開発の断末魔’

— サロー先生を追悼する —

(株)ジヨウケイルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development

‘Fate of the product development’

-May his soul rest in peace-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords:資本主義の断末魔・製品開発の断末魔・可視化・定量化

弊社の創立以来、顧問に就任していただいておりますMIT名誉教授のレスターサロー先生が、昨年3月25日にお亡くなりになってから、早いもので1年半を過ぎようとしております。おおよそ26年間にわたり、サロー先生から世界経済の浮き沈みについて、数多くのご指導を賜りました。ここに、改めて哀悼の意を表します。

サロー先生は、経済学者として世界的に有名な方ではありますが、“ゼロ・サム社会”を出版されたことでも知られています。数々の本を出版されていますが、“ゼロ・サム社会”後の“大接戦”、“資本主義の断末魔”は、筆者にとってバイブルになっていると言っても過言ではないかもしれません。現在の世界経済を俯瞰しますと、まさに“資本主義の断末魔”といえるのではないのでしょうか。生前、サロー先生と新製品開発と経済の動向との関係について、一晩中議論したことを今になって振り返りますと、遺言であったように思います。資本主義は、断末魔を迎えたといいますより、資本主義を超えた新たな枠組みづくりが必然的に行われ、その枠組みが出来上がるまでの間は大混乱に陥るといっていいでしょう。今、まさにその時期の最終章にさしかかっているとも思われます。同時に、経済の一旦を担う製品開発も衰退を迎え、ある意味では“製品開発の断末魔”と名付けた方が良くもありません。

製品開発の原点は、顧客ニーズの多様化に迅速に対応しつつQCD（品質・コスト・工程）を限りなく追及するということです。しかしながら、現在の製品開発の実態を見ますと、到底厳守できない目標を掲げているために、QCDを厳守できない状況に陥り、顧客に迷惑をかけてもさして反省もしない企業環境になっていると言っても良いでしょう。まさに、“製品開発の断末魔”といえると思います。

こうしたことに鑑みますと、2015年12月号に述べましたように、日本の強さはひとえに製品力、深掘りしますとどこにもない新たな製品、あるいは一工夫を加えた製品、誰にも負けない品質のよさであり、それらが世界を圧倒してきたといえます。筆者自身も新製品開発を現場で共に実施していますが、開発エンジニアに何か異変が起きているという場面に遭遇することが多くなりました。その異変とは何なのだろうかと思いつつ、今になってわかることは、売れる製品になっていないということから起きる精神力の弱さだと思われまます。これは、単純明快な答えでありながら、その解決の処方箋をつくることは難しいかもしれません。ある意味では、用意周到に“念には念を入れて”の開発では、そのような異変など決して起こりえないことだと思われまます。では、開発現場でエンジニアに異変が起きていて、仮にその原因が精神力の弱さだとすれば、その解決はどのようなものなのだろうか。それは、筆者の経験から生まれたもので、これが最良といえませんが、開発のプロセスを粛々と実施する訴求テーマと開発の過程で起きる葛藤、つまり感情的な要因を徹底して排除するという方法です。簡単に述べますと、新製品開発の過程を徹底して可視化・定量化を行うことであると言えます。

サロー先生、本当にありがとうございました。“製品開発の断末魔”を超えて、新たな製品製品づくりに奔走したいと思います。